

引退競走馬に明日を創る！

長野市立長野高等学校3年 町田大夢



目次

- 1 研究の動機
- 2 研究の概要
- 3 考察(2024年度)
- 4 感想(2024年度)
- 5 今後の展望
- 6 考察・感想(2025年度)

1 研究の動機

競走馬が大好き

引退した馬はどこに行くの？



1 研究の動機

引退馬の多くが
殺処分や行方不明
に、、、



目標

余生を楽しめる
養老牧場を作る！

2 研究の概要

- ① インターネットや、過去の新聞を使って調べる
- ② 引退馬問題について、インターネット上で記事を出している、株式会社 CreemPan「Loveuma」代表取締役、平林健一様への取材
- ③ 飯綱乗馬クラブへの取材
- ④ アメリカの警察官への取材
- ⑤ 引退牡馬を管理する牧場である社台スタリオンステーションへの取材
- ⑥ 馬探2024をはじめとする多数のコンテスト参加、受賞
- ⑦ 学校での講演活動
- ⑧ 引退馬支援のクラウドファンディングの立ち上げ運営
- ⑨ 璃翔祭ポニープロジェクトの立ち上げ・運営
- ⑩ 「みんなの馬株式会社」COO 角居勝彦さんへの取材

引退馬問題って何？ 何が問題なの？

引退馬問題とは、

競馬を引退した競走馬に起こっている、産業課題とも言える様々な問題のこと

主に問題とされる点

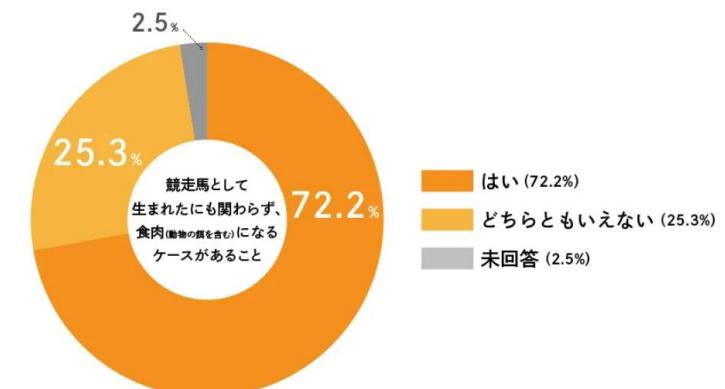
行方が分からなくなる

天寿を全うできない

再活躍の場所が少ない

意見が分かれる「食肉になるのが問題」

一方、(2) 食肉になること、すなわち引退馬の屠畜については特に意見が分かれました。



LOVEUMA HP

(https://www.loveuma.jp/post/lm_230121)より

Loveuma.

①引退馬の現状をインターネットや、過去の新聞を使って調べる

引退競走馬の現状

- ・引退馬の約8割が殺処分や、食肉になっていると言われている
- ・競争生活を終え、乗馬クラブに行くと言ったら暗黙の了解として、殺処分か食肉になる（競馬に関わる多くの人がこの事実を認識）
→競馬会では引退馬の話はタブー
- ・競走馬は、「経済動物」と言われていて、早く走ることだけが目的で、走らなくなったら用済み

② 引退馬問題について、インターネット上で記事を出している、株式会社CreemPan「Loveuma」代表取締役、平林健一様への取材

・Q1. 引退馬問題の現状についての平林様の考え方

- ・競走馬の多くが登録抹消後、行方が不明
- ・馬の意志が介在していないことが問題
- ・解決には時間がかかる
(生産する数を減らすのは難しいのではないか)

・Q2 今後、この問題をどうしていくべきなのか？

- ・年齢に関わらず今の引退馬の現状を知ってもらうことが大切
- ・最終的には今よりも明確なゴールを設定する必要がある



株式会社Creem Pan HP
(<https://www.creempa.n.jp/post/info-240810>)
より

Loveuma にて掲載していただいたインタビュー記事

騎手を目指す前に、先にやるべきこと

小学6年生の頃、テレビで競馬を見たことがきっかけで騎手に憧れるようになった町田さん。騎手を目指し、乗馬クラブに通うことを考えましたが、金銭的なハードルが高かったため、数年間の貯蓄を経て、高校一年生から長野県内の乗馬クラブへ通うようになりました。

しかしインターネットで騎手や競馬のことを調べている中で、引退馬問題を知り、大きな衝撃を受けます。
次第に「騎手をやるよりも先にやることがあるのではないか」と考えるようになり、引退馬支援に繋がるようなビジネスをつくり出すことができないかと、次第に考えるようになったそうです。

そうした中、Loveuma.を見つけて、連載されている記事を読み漁っていたとのこと。
高校の学習研究課題制作として、「引退競走馬問題」を取り上げることを決意し、その取材の一環としてCreem Panオフィスを訪れました。



取材の中では

- Loveuma.での活動内容とポリシー
- 引退馬問題のゴールとはどこにあるのか
- 引退馬問題にどう向き合うべきか
- 引退馬を活用したビジネス
- 今後の引退馬問題のやるべきこと

などをトピックとして、平林がこれまでの活動を基にした経験談を中心にお答えする形で、一時間ほど取材を受けました。

弊社代表・平林より

引退馬問題のゴールがどこにあるのかが、わからないと仰っていたのは、まさにそうだと思いました。そしてそれは、折角、将来有望な高校生がこの問題に関心を持ち、自分の人生とリンクさせようとしているにも関わらず、一人の大人として申し訳ないと感じたところもありました。

現状、この問題に違和感を感じている一人一人が、自分がやるべきこと、出来ることを積み重ねてこの問題における取り組みの水準を高めていくことが求められていると思います。
そしてその先に、今よりもより明確なゴールを見出すことが何よりも必要であると、今回の取材を通じて再確認するとともに、私自身も町田さんに負けないように、自分流の引退馬支援を続けていきたいと思いました。
本当に良いご縁をいただき、感謝しています。
町田さん、遠路はるばる、ありがとうございました！



株式会社Creem Pan HP
(<https://www.creempan.jp/post/info-240810>)より

③ 飯綱乗馬クラブへの取材

引退馬問題の現状とは？

- ・活躍した馬、セレクトセールで高値がついた馬→乗馬クラブや牧場に
- ・多くの場合は、食肉やペットフードになるか殺処分

引退馬を多く引き取り、乗馬として活用しているが、馬の生活費はどうしているのか？

- ・競走馬時代のファンが引き取る
- ・オーナーがあらたにつくことが多い



(筆者撮影)

④アメリカの警察の方に取材



アメリカの馬
←に乗った警 →
察官の様子

アメリカ合衆国
カリフォルニア州
(筆者友人撮影)



SHOW YOUR DREAMS 2024

・大谷翔平選手から1週間のアメリカ留学に招待していただく



子どもたちが思い描く“夢”。
それは、大きく、自由であってほしい。
夢に一歩でも近づけるように、
僕がいまできることを、ECCさんと一緒に。

大谷 翔平

大谷翔平×ECC 共同プロジェクト SHOW YOUR DREAMS 2024

「SHOW YOUR DREAMS」プロジェクトは
ECCブランドアンバサダー・大谷翔平選手自身の
“日本の子どもたちの海外への挑戦を応援したい”との
強い思いからスタートしました。

大谷選手とECCは共同で、日本の小・中・高校生のみなさんの
“世界へ、未来への夢”を応援します。
さあ、言葉の壁を超えていこう。

未来へ、**翔**け。
はばた

大谷翔平×ECC共同プロジェクト SHOW YOUR DREAMS 2024 HP
(https://www.ecc.co.jp/project_ohtani/) より

④アメリカの警察官に取材

引退馬問題について知っているか？

・聞いたことはあるが、あまりよく知らない

馬に対する考え方を教えてください



国が違えば当然引
退馬の現状も違うと
いうことに気付かさ
れた

・生活を共にするパートナーであり、家族も同然
・アメリカの人々は元々騎馬民族のため、馬に
に対する日本人との考えも違う

⑤社台スタリオンステーションでの取材

Q 引退競走馬の現状とは

- ①殺処分か食用になる
(犬や猫のペットフードになる)
- ②活躍した馬、血統がいい馬→種牡馬や繁殖牝馬
- ③乗馬クラブに譲渡、転売
- ④競走馬時代のファンに引き取られる
- ⑤引退馬を受け入れてくれる施設に譲渡



(筆者撮影)

⑤ 社台スタリオンステーションでの取材

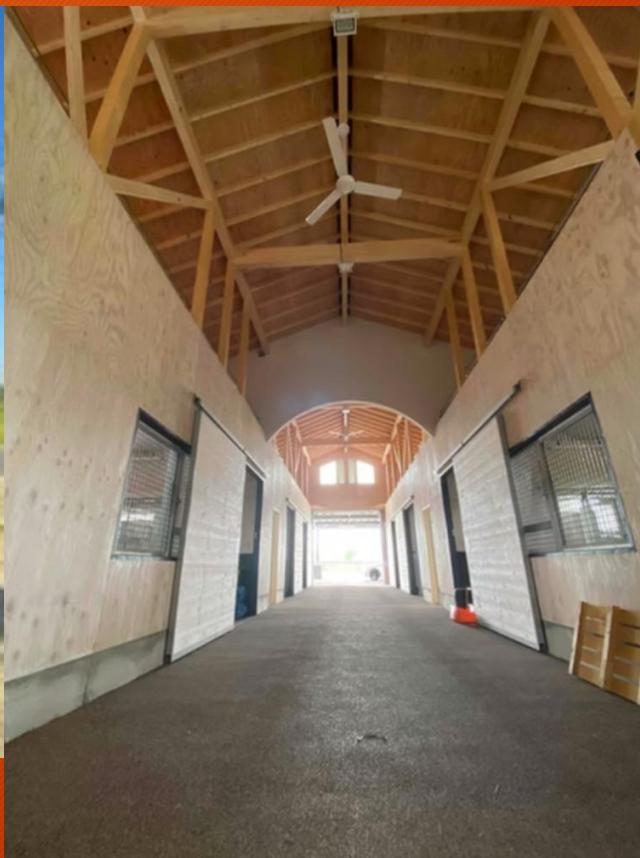
・Q 引退馬の今後についてどう考えているのか？

- ・競馬が縮小しない限り、生産頭数を制限するなどの対策は難しい
- ・ここ50年で見ても小さな牧場での競走馬の生産頭数は減っている
- ・競馬ブームもあり、日本全国で競走馬の生産に力が入れられている
→今後5年の間は競走馬の生産は増えると予想

社台ホースクリニックの見学



社台ホースクリニックHP
(<https://www.shadai-horse-clinic.com>)より



去勢手術を見学させていただき、繁殖という責任の重さを感じた

3 考察(2024年度)

- ・近年の競馬バブルも影響し、生産されているサラブレッドが増えている
→引退馬のいき先が確保できない
→現状よりも多くの引退馬が悲しい未来を送る
- ・養老牧場ではどのようなサイクルで引退馬を受け入れていくのか
- ・競馬に関わらない人ともこの問題についての対話をしてみたい

4 感想(2024年度)

- ・競馬という一大産業の中で起こっている問題のため、大きなシフトチェンジが難しい
- ・トレーサビリティを導入している国がある一方で、日本では行方不明になる引退馬がいるということは大きな問題
- ・日本と海外の歴史的背景を踏まえて引退馬問題について考えることが大切
- ・引退馬問題は何が1番の問題なのかを改めて考える
→殺処分されたり、行方不明になる馬がいることが問題

この前のスライドまでが2024年度の活動であり、ここまで活動で、引退馬の現状をおおまかに把握することができた。今後の展望として次のスライドのようなことを考え、2025年度の活動につなげていった。

5 今後の展望

引退馬が自ら資源を生み出すようなサイクルを考える！！

具体的な構想

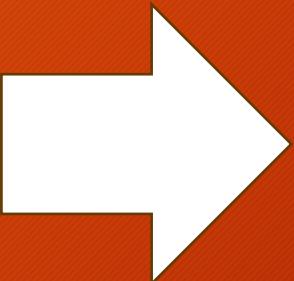
- ① 乗馬体験、ホースセラピー、引退馬との触れ合いが手頃な価格で行える養老牧場
- ② 大好きな地元、長野を活性化するため、ぶどうやりんご狩りもでき、引退馬の乗馬体験もできる養老牧場
- ③ ①、②をした後に馬糞を利用した土で育てた野菜などを使ったご飯が食べられるレストランを併設した複合型養老牧場
(元競走馬の運動量を生かして、何かしらの発電もできるのではないか？)

5 今後の展望

最終的な目標

今の社会

- ・馬と関わるのにはお金が必要
- ・馬は身近ではない
- ・乗馬はお金持ちがするスポーツ
- ・引退馬が問題になる社会



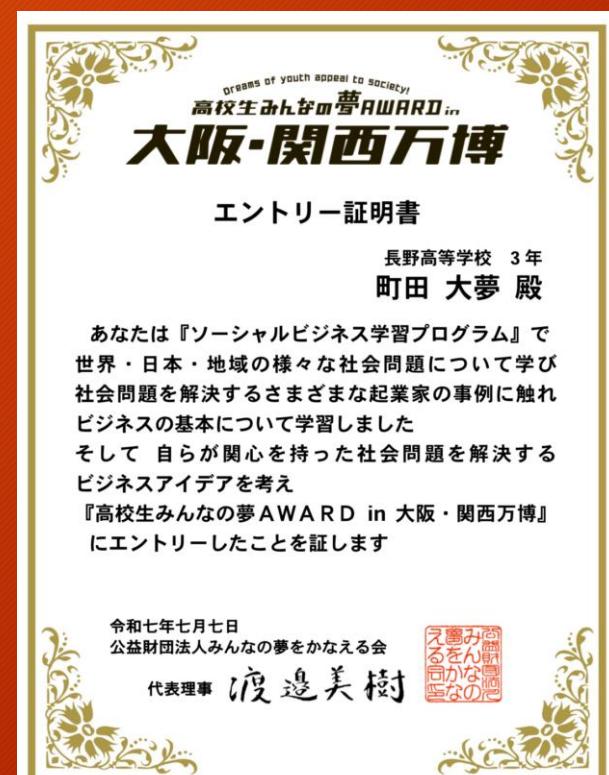
未来の社会

- ・手頃な価格で馬と関われる
- ・馬が身近にいて、馬と一緒にいると癒される
- ・乗馬は気軽にできるスポーツ
- ・引退馬がビジネスになることで、引退馬にも価値がある

⑥様々なコンテストに応募

出場コンテスト(一部抜粋)

- ・高校生MIRAI万博
- ・自由すぎる研究
- ・高校生みんなの夢AWARD
- ・「馬探」EXPO 2025 大阪・関西万博
出展記念 特別企画



⑦学校での講演活動

目的

- ・自分のような若い世代の人たちに引退馬の現状を知ってもらうため
- ・若い世代の人々はこの現状をどう受け止めるのか知るため
- ・自分の考えを言葉にすることで、自分自身の考えを整理するため

活動内容

- ・自分の研究で分かった引退馬の現状を伝える
- ・質疑応答をする
- ・フィードバックをしてもらう

⑦学校での講演活動

長野市立西部中学校



信州大学附属長野中学校



長野市立長野高等学校



⑦学校での講演活動

講演を通しての学び

- ・若い世代の「引退馬」の認知度はまだ低い
- ・競馬に関わらない学生は、馬が身近におらず、引退馬問題のイメージがわきづらい
- ・自分が本気で「引退馬」のことを説明したら、学生も一緒になって真剣に解決策を考えてくれる

⑧引退馬支援クラウドファンディング立ち上げ・運営

長野市立長野高等学校の生徒が「引退馬」について広める活動の資金として、クラウドファンディングを開始しました!

●プロジェクト実行者について

長野市立長野高等学校3年の町田大夢です。私は「引退競走馬に明日を創る！」をテーマに掲げ、引退馬にフォーカスした活動を行っています。なぜ引退馬に着目した活動をしているかというと、小学生の頃から競走馬が大好きだった私は将来は騎手になることを夢見ていました。しかし、あるネットニュースを見て引退馬の多くに行き先がなく、食肉にされたり殺処分されているという現実を知りました。このニュースに大きな衝撃を受け、人間の都合で生まれ、過酷な調教に耐え、人間のために頑張って走ってきた競走馬が送る引退後の未来としてはあまりに悲惨だと感じました。そこから、大好きな競走馬のためにまずは自分がすべきことは騎手になることではなく、引退馬が余生を過ごせる場所を作ることだと強く感じました。このような経緯を経て、引退馬問題について学び、発信する活動を行ってきました。様々な場を借りて活動をさせていただきましたが、「話を聞くだけではあまりイメージが湧かないような気がする」というお言葉をいただいたことがあります。そこで、文化祭にポニーを招待し、直接馬に関わる場を提供しながら引退馬問題についての説明をすることで、より、「引退馬」という存在がイメージしやすくなると考え、この「引退馬について考える文化祭ポニープロジェクト」を思いつきました。文化祭にポニーを連れてくるための費用をクラウドファンディングで集めています。

●これまでの活動内容

・株式会社CreemPan 代表取締役／人と馬を身近にするサイト「Loveuma.」運営責任者 平林健一様 取材

- ・Show your dreams2024 参加
- ・飯綱高原乗馬俱楽部での活動
- ・馬探2024応募（優秀賞受賞）
- ・高校生MIRAI万博 応募
- ・自由すぎる研究 応募
- ・長野市の中学校での講演



<https://camp-fire.jp/projects/846839/view>



引退馬について考える

文化祭
ポニープロジェクト



(筆者作成)

⑧引退馬支援クラウドファンディング立ち上げ・運営

クラウドファンディングの目的

- ・1人でも多くの方に「引退馬」という言葉を認知していただくこと
- ・競馬に関わらない人は「引退馬問題」をどう感じるのかを知ること
- ・多くの人が考える「引退馬問題」の解決策を知ること
- ・直接馬と関わる機会を提供することで、馬の温かさを感じてもらい、引退馬というものをイメージしてもらいやすくすること

⑧引退馬支援クラウドファンディング立ち上げ・運営

クラウドファンディングの結果

- ・1か月程度の短い募集期間だったにも関わらず、20万6千円の寄付をしていただいた
- ・目標金額には届かなかつたものの、ポニーを貸してくださったハーモニーセンター様のご協力のおかげでポニープロジェクトが行えることになった



⑨璃翔祭ポニープロジェクト

プロジェクトの概要

- ・文化祭にポニーを連れてきて、触れ合い体験、餌やり体験を行う
- ・引退馬の現状を端的にまとめたチラシを作成し、配布する
- ・チラシにアンケートのQRコードを付けて答えてもらう

プロジェクトの結果

- ・4時間で200人以上が来場
- ・県外からも多数来場



引退馬問題って 知っていますか？

引退馬問題とは、、

競馬を引退した競走馬に起こっている、産業課題とも言える様々な問題のこと

問題とされるのは、、

- ①食肉になる、殺処分されること
- ②行方不明になる馬がいること
- ③再活躍の場所が少ないこと



そんな現状を変えるために！

引退馬の養老牧場を創ることを決意し、全国各地で研究を行ってきました。しかし、何が、引退馬問題の解決なのかまだはっきりわかっていません！
ぜひ、皆さんの引退馬に対する考え方を右下のQRコードのアンケートから教えてください！



配布したチラシ↑

⑨璃翔祭ポニー・プロジェクト

活動の様子



(筆者妹撮影)

⑨璃翔祭ポニープロジェクト

アンケートの結果と考察

1. 本日のポニーとの触れ合いは楽しかったですか？

5.00

平均評価



レベル 5

レベル 4

レベル 3

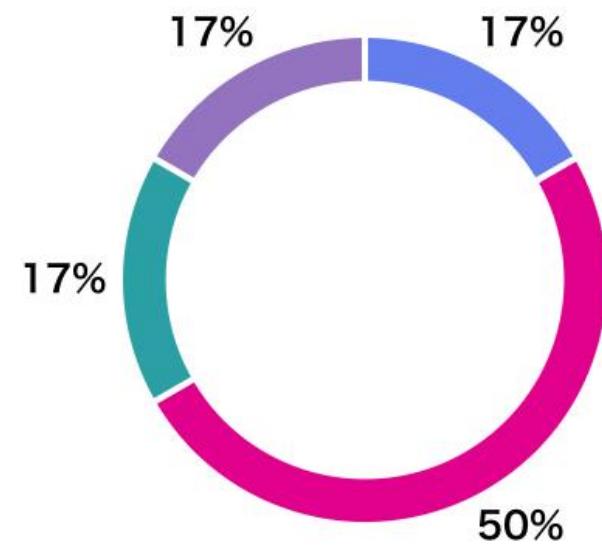
レベル 2

レベル 1

(筆者集計アンケートより)

2. 引退馬についてどれだけ知っていましたか？

- 聞いたこともなかった
- 聞いたことはあった
- 聞いたことはあったが、理解はしていなかった
- よく知っていた

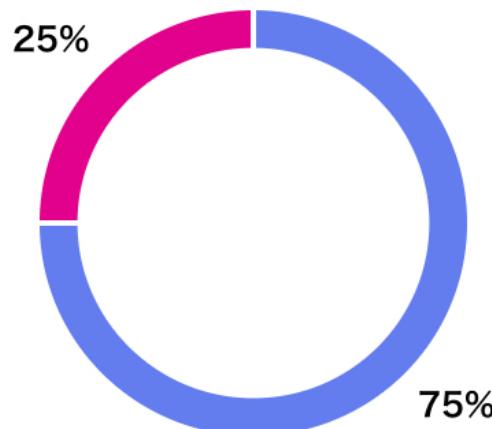


(筆者集計アンケートより)

⑨璃翔祭ポニープロジェクト

3. 引退馬の現状は問題だと思いましたか？

- 問題だと思った
- よく分からぬ
- 問題だと思わぬ



Q4. なぜ引退馬の現状について、そのように思いましたか？

- ・競走馬の使い捨て感が半端ないと思った
- ・全ての馬が牧場で余生を過ごせないことを知ったから
- ・引退馬のその後をよく知らないから
- ・もう少し、しっかりと学ぶ必要があると感じたから

(筆者集計アンケートより)

⑨璃翔祭ポニープロジェクト

Q5. 今後、どうしていくのが引退馬問題の解決につながると思いますか？

- ・競馬や乗馬以外にも馬に親しめる場を増やしてほしい
- ・今回のようなポニープロジェクトをいろいろなところで企画してほしい
- ・引退馬を飼育するための具体的なコストを示す
- ・そもそも競走馬を生み出しそぎないことが大切

(筆者集計アンケートより)



(信濃毎日新聞 6月26日 第一面より)

⑨璃翔祭ポニープロジェクト

プロジェクトを通して感じたこと

- ・馬には人を笑顔にする力がある！
- ・馬はまだ珍しい存在であること
- ・やはり引退馬の現状は問題である
- ・たくさんの方の協力があってプロジェクトが成功すること
- ・学校を説得するのには骨が折れる



(長野市立長野高等学校 参与撮影)

⑩「みんなの馬株式会社」COO角居勝彦さんへの取材

角居さんが考える引退馬問題の問題点とは？

- ・プロセスごとに役割が変わる競走馬の詳細をはつきりさせないこと
- ・競馬で負けた馬を行方不明にすること
- ・競走馬には名前をつけるため、行方不明や殺処分という結末に人間の感情が入ってしまうこと



(Zoom 取材より)

⑩「みんなの馬株式会社」角居勝彦さんへの取材

角居さんが引退馬の支援に活躍の場を移した理由

- ・調教師として働いている間もどこかで引退馬ということがひっかかっていた
- ・人間の飼養管理などで勝つチャンスを失った馬に対する人の責任だと考えるから
- ・馬の役割は速く走ることだけじゃないから

⑩「みんなの馬株式会社」COO角居勝彦さんへの取材

角居さんが能登で引退馬支援を行うようになった経緯

- ・馬を使って能登を良くしたいと考えたから
- ・馬というツールを用いて天理教を布教させたかったから

これからの引退馬への思い

- ・過疎地域で引退馬支援ができるという一例を作る
- ・馬にしかない魅力を活かしたビジネスを行っていきたい

6 考察・感想

- ・引退馬問題の問題点は、引退後の行方をはっきりさせないことがある
- ・馬に触れ合う機会がそもそも少ないため、引退馬の現状が広まらない
→引退馬支援の第一歩は現状を知ってもらうこと
- ・自分で行動を起こしてみると予想以上に多くの人が興味を持つてくれる
- ・やはり、引退馬の養老牧場で収益を上げていくには引退馬が自ら資源を生み出すサイクルは必須である
- ・多くの方々に支えていただき、引退馬に関わる活動ができたことにとても感謝している

参考文献

- Loveuma. https://www.loveuma.jp/post/lm_220827_1 (参照2024-12-20)
- 一般社団法人日本競馬協会. https://www.jrha.or.jp/selectsale/2024_list4.html (参照2024-12-20)
- derby-trail. 避けては通れない。引退馬の「再雇用」について考える. <https://derby-trail.com/reemploymentofthehorse/> (参照2024-12-10)
- 社台ホースクリニック. <https://www.shadai-horse-clinic.com/gallery> (参照2024-12-20)
- ECC×大谷翔平 共同プロジェクト「SHOW YOUR DREAMS」. https://www.ecc.co.jp/project_ohtani/ (参照2024-11-20)
- アメリカの馬に乗った警察官の写真(筆者友人撮影カリフォルニア州2024-08-10)
- 信濃毎日新聞 6月26日 (参照2025-6-26)

ご清聴ありがとうございました！

あなたも一緒に引退馬問題の
今後を考えてみませんか？

